講義名	対1)国際関係論					授業形態	
担当教員	村上　友章	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 １時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング	

主題と概要

【目的】
この授業は国際政治に関わる基本的な知識・理論を習得し、それらを用いて現代世界の諸問題を考察する能力を養うことを目的とする。

【内容】
この授業では、二つのパートにそって講義を進めていく。第一部「国際関係の現状」では、メディア等も使いながら国際関係の現在について学ぶ。第二部「戦争の条件」では、様々な事例問題に挑戦し、国際関係論の最大のテーマである「戦争と平和」についての理論を学ぶ。

【意義】
私たちの暮しと密接な関係にある国際関係の変化を理解し、それについて深い洞察を示すことを目指す―こうした本授業の目的・内容は、まさに「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソンを育成する」という本学ディプロマポリシーに合致するものである。

到達目標

・ 国際関係学の代表的な理論を学ぶことで、国際関係を動かすメカニズムや要因についてのさまざまな見方を理解できるようになる。
・ 現代の国際社会が直面するさまざまな問題について正確な知識をもって理解し、その解決策について自分なりの見解を説明することができるようになる。
・以上の諸点を通じて、受講生は、本学のディプロマポリシーが掲げる資質・能力（「論理的思考力」「課題発見力」「構想力」「ビジネスパーソンとしての基礎能力」等）を習得できるようになる。

提出課題

【毎回の予習・復習レポート】
基本的に毎回、予習として教科書の該当箇所を読み、あらかじめ指示された演習問題を解き、それらをレスポンを通じて提出する。また授業後には復習問題にも取り組み、レスポンを通じて提出する。

【学期末レポート】
学期末には、授業で学んだ国際関係の知識や諸理論を用いて、世界の諸問題を考察する期末レポートを課す（1000文字以上）。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の予習・復習課題については、授業中にて解説を行う。

評価の基準

・評価は、予習・復習レポート（５０％）と学期末レポート（５０％）を合算して行なう。
・教科書および講義で説明された内容が正確に理解できているかどうか、そのうえで自分なりの立場や見解が論理的に説明できているかどうかが、評価の基準となる。

履修にあたっての注意・助言他

・「政治学」の授業をあらかじめ履修しておくことを強く推奨する。
・本授業は教科書を用いた予習・復習を毎回、課す。そのため教科書は必ず手元になければならない。
・教科書の内容は授業中に解説するので、本を読むのが苦手な学生も、予習・復習を粘り強く続ければ読解力は身に付くだろう。他方、教科書で予習・復習をする覚悟の無い学生には、この授業は意味がない。

教科書

.戦争の条件.	藤原帰一	集英社	880	978-4087206869
.地図で読む「国際関係」入門.	眞淳平	筑摩書房	990	978-4480689436

参考図書

.なし.				

その他

授業ごとに必要に応じてポータル等を通じて資料を配布する。

授業計画

第1回　はじめに
［パート１：国際関係の現状］
第2回　日本
第3回　アメリカ
第4回　中国と新興国
第5回　EU
第6回　発展途上国
第7回　新たな国際主体
第8回　21世紀の難題
［パート２：戦争の条件］
第9回　戦争が必要なとき
第10回　覇権国と国際関係
第11回　デモクラシーの国際政治
第12回　大国の落落・小国の台頭
第13回　領土と国際政治
第14回　歴史問題
第15回　平和の条件

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・毎回の提出課題である「予習・復習レポート」の作成に毎週４時間程度を要する。
・予習・復習レポートの教科書参照箇所や演習問題は、授業やPortalを通じて指示する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

（１）本授業の目的・内容は、以下の本学のディプロマポリシーに大きく貢献できる。
【流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力】
①「ネアカのびのび へこたれず」の精神をもった人材
②知識を知恵に転換することができる，論理的思考力を持った人材
③創造力 新しい視点と豊かな発想 を持った人材
④自主・自立の精神を持った人材
⑤仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材

（２）本授業の目的・内容は、以下の経済学部経済学科のディプロマポリシーに大きく貢献できる。
〔共通〕人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に着け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。
〔現代経済コース〕世の中の動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案することができる。
〔地域まちづくりコース〕経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

・クリッカー（レスポン）を用いて、予習・復習レポートおよび学期末レポートを課す。
・クリッカー（レスポン）を用いて、質疑応答やアンケートを行う。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。外務省総合外交政策局・国際平和協力室調査員。外交実務の一端に触れた経験から、国際政治・日本政治の実情をふまえた演習を行いたいと思います。

備考

受講生のリクエスト等に応じて、授業計画は柔軟に変更することもありうる。